

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400963		
法人名	有限会社トリノ		
事業所名	グループホームあい		
所在地	〒041-0812 北海道函館市昭和町3丁目29番47号 (電話) 0138-62-2246		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄板 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	28,000~36,000 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	5 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.6 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀田病院、平田皮膚・泌尿器科、吉田眼科、としま整形、上田歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、商工業系の企業が建ち並ぶ地域の一角に立地している。採光豊かな居間には、各行事の写真や、利用者の作品を飾っており、利用者は穏やかに時間を過ごしている。事業所内の前面には、来訪者にもわかりやすいように、全職員が願いをこめて作りあげた「笑顔たえない、ぬくもりある暮らしを提供します(真心・円満)」という理念を掲げている。管理者をはじめ、全職員は、「利用者のために私たちがいる」という信念の下、きめ細やかなケアを目標に、日々研鑽を重ねている。また、3ヶ月毎に開く家族会は、家族と職員の信頼関係を築く大切な時間となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は、特にない。引き続き、更なる取り組みへの充実が期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	年2回、全職員で自己評価を行っており、結果を検討して、改善点についてはできるものから実施している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、会議の討議内容を会議録におさめ、今後の事業所運営に反映させるべく、全職員で話し合いを持っている。運営推進会議には、事業所に設置している事故防止、身体拘束・虐待、感染予防、防火、広報の5委員会から、それぞれ担当職員が参加している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	3ヶ月に1度開催している家族会では、利用者の各担当者から、利用者の日ごろの様子や金銭管理等について、報告をしている。また、どんな些細な事柄でも、意見、要望を受けた場合は、早速実施するよう全体会議にかけける仕組みをとっており、現在のところ苦情等はない。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所の立地条件上、地域と日常的な交流を図ることは難しい状況にあるが、近隣住民へは、事業所の各行事等の案内を配布し、参加を呼びかけている。最近では、週に2、3人の来訪者もあるなど、少しずつではあるが、地域との交流の輪が広がりつつある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が尊厳ある日常を送れるよう、全職員が案を出し合い、分かりやすく親しみある理念に変更し、その実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング時には、必ず理念について話し合っている。また、ネームプレートの裏に書かれた理念を、職員は常に意識しながら実現に向け努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内活動に参加している。しかし、近隣には会社等が多く、事業所行事等が、より良い地元との交流につながるまでには至っていない。	○	利用者の生活の安定や拡がりのために、運営推進会議等を活用し、地域からの理解を深めるように働きかけることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、年2度自己評価を実施しており、意義をよく理解している。外部評価についても、合同ミーティングで検討し、改善に向け積極的に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項については、事業所の感染、防火、事故防止、身体拘束、広報の5委員会のメンバーが中心となり、積極的に取り組んでおり、改善につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村、保健所の担当者と日ごろより交流を密にしており、相談しやすい関係を保っている。また、保健所職員を講師とし、感染症予防の研修会を開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの家族に、3ヶ月に1回、写真と共に日常の生活の様子を報告するとともに、月1回は金銭出納帳の写しと、買物等の領収書の原本を送り、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を聞き取るため、玄関前に意見箱を設置している。また、3ヶ月に1回家族会を開いており、自由に話せる雰囲気づくりに努力しているとともに、要望などがあれば、早速、改善につなげるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来5年間、職員の離職はほとんどなく、基本的には職員の固定化を守っているとともに、離職時には、利用者のダメージが少ないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、スタッフ研修等、職員が順番に研修会に参加するよう配慮しており、合同ミーティングで研修の結果報告をし、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、南北海道グループホーム協議会、Cブロックに所属している。ブロック会議に参加し、同業者の意見を参考にするなどサービスの質の向上に活かしており、他事業所への見学についても、検討中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が、徐々に事業所の雰囲気に馴染めるよう、本人、家族の事業所見学を工夫している。また、急な利用開始の場合は、家族のほか、利用者の知人にも来訪を依頼し、利用者の安心につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、生活の知恵やことわざなど、利用者から教わる事が多い。食事の味付け等も、利用者は孫に教えるように優しく職員に接するなど、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な利用者のため、家族から聞き取った利用開始前の生活歴等の個人情報参考に、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を、全職員の気付きや意見を取り入れて作成しているとともに、計画の内容は、全職員が知ることができる仕組みを作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族と相談の上作成した介護計画に、実施期間を明示しており、期間終了時には、見直しを行うことはもとより、利用者の状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複数の医療機関への通院送迎など、本人や家族の状況に応じて、臨機応変に柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	非常勤看護師が、週5日、午前中勤務しており、利用者一人ひとりの健康状態を把握しているとともに、医師との連絡もよく、適切な指示を受けている。また、夜間の受診等にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに終末期を迎えた例は無い。利用開始時に、重度化や終末期について、家族に説明している。しかし、重度化や終末期を迎えた際の具体的な対応については、職員間で話し合っているが結論が出るまでには至っていない。	○	非常勤の看護師とも連携し、今後は、事業所でできること、できないことを見極め、話し合いを重ねて、連携体制づくりに取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーに係る記録簿等は、人目にふれない状態で管理している。また、職員の意識向上のため、勉強会、ミーティングの折などに、特に利用者への言葉がけについて、話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調、気持ちを尊重しながら、個人の希望に沿った支援を行うよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は共に、食材の購入から調理、盛り付け、後片付けを行っている。また、職員は、さりげなく利用者をサポートし、利用者と職員は祖父母と孫のように、穏やかに共に食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回の入浴となっており、夜間以外は、利用者の希望に沿った入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者無理のない範囲で、それぞれの得意分野を発揮できるよう支援している。また、希望に合わせて、ドライブ、花見、花火見物、買物など、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、函館山の夜景を楽しむなど、希望に沿ってできる限り戸外にでかけるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため、施錠している。日中は、利用者の自由な暮らしを支え、心理的圧迫感をもたらさないように、施錠はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、また、車椅子の利用者の避難方法等について、実施訓練を受けている。特に、全職員は「火を出さない」を合い言葉に、日々話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を個別に毎日記録しており、一日の平均水分摂取量は、1300cc～1500ccを確保している。また、記録は全職員が把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東南に向いた大きな窓からは、明るくあたたかい陽がふり注ぎ、2つの居間にいる利用者が笑顔でくつろぐ空間となっている。大きな車椅子対応のトイレ、上下する洗面所を設置しているとともに、清潔な廊下や玄関、季節感ある飾り物等で、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族との思い出の写真、使い慣れた椅子、ラジオ、色紙などを持ち込むなど、居心地よい工夫をしている。		

※  は、重点項目。